

「高単価・低価格」の提案営業など創意工夫で独自の積極取組を展開

株式会社^{エムティーシー}M.T.C 奈良県大和高田市

■独自の積極取組で注目を集めるプレス加工企業

1968年に金属プレス加工業として創業し、現在県内トップクラスのプレス機保有台数を誇る『株式会社M.T.C』。設備や作業品質はもちろんのこと、優れた工程改善能力に裏打ちされた提案営業が評価され、大手住設メーカー・鋼製家具メーカー等からユニットバス・デスク・棚等の金属部品加工を請け負っている。また、国の「ものづくり補助金」にも何度も採択されるなど、独自の積極取組が注目を集めている。

■「高単価・低価格」の提案営業が最大の強み

プレス加工は「プレス回数×1プレスあたりの加工単価」で加工賃が決まる。かつての同社は安さを売りにして加工数量で稼ぐ方針だったが、創業者である父から会社を引き継いだ森久次社長は、「安さばかりを売りにしてはいくら数量をこなしても中々儲からず、それを前面に押し出して営業するのはおかしいと感じていた」と振り返る。

そこで森社長は、金型設計、プレス加工方法、工程等を改善して創意工夫。プレス回数を減らすと同時に加工単価を引き上げて利益率を改善し、なおかつ総加工賃（価格）を引き下げること成功した。顧客と同社がともにWin-Winのこの取組を「高単価・低価格」の提案営業につなげて積極的に展開し、現在同社の最大の強みとなっている。

こうした同社の創意工夫のDNAは、明治時代に活躍した大和高田出身の発明家で、森社長の先祖にあたる藤田孫太郎氏に遡ることができる。藤田氏は様々な織機を次々と発明し、蒸気機関を用いた自動織機まで生み出した偉人で、そのチャレンジと先取の気風が今も同社に受け継がれている。

■補助金や各種認定への積極的なチャレンジ

2012年度に始まった国の「ものづくり補助金」では過去6年間で5回もの採択を受け、2016年

には県内企業として初めて国の「経営力向上計画」の認定を取得。しかも、ものづくり補助金の初回の申請こそ専門家の書類作成支援を受けたが、それ以降の補助金申請や認定取得は基本的に社長自らすべての書類を作成している。

この申請書作成作業を通じて自社の業務を文字や数値で可視化でき、会社の全容把握と新規事業計画の立案の面でもとても役立つという。「昔は文章を書くのが大嫌いな現場人間だったが、申請書作成に一生懸命取り組むうちに書くことが大好きになった」と森社長は笑う。

■人材育成により会社を次世代につなぐ

かつては何でも1人でこなすワンマン型だった森社長だが、ある時、人材を育てることが企業としての継続と雇用の維持につながると気づき、それからは自分の仕事を後進に譲ることで人材の成長を促すことに常に留意している。

「補助金等を活用して充実した設備を備え、高単価・低価格の提案営業の流れも整えた。今後は成長した次世代がこの武器を使って業務を進展させ、『M.T.C』という社名の信用でどこでも通用するような、社員皆が誇れる会社に育ててほしい」と、森社長は今後の夢を語る。（吉村謙一）



（左から）「ものづくり補助金」等を活用して導入された最新鋭のプレス機/同じくベンダー（曲げ加工）機



森久次 社長

株式会社 M.T.C

〒635-0076
奈良県大和高田市大字大谷 126 番地 2
TEL: 0745-22-1410
FAX: 0745-22-2495
URL: <https://mtc-nara.co.jp/>